

# 自動走行技術を農業に技術転用

## 地方創生特別委員会



農業にドローンの活用実験

2月5日 協議会開催

幸田町まち・ひと・しごと創生総合戦略

交付金事業の評価と今後の取り組み状況を協議。

低温プラスチック事業

Q 青果物へのプラスチック処理の効果は。

A 成熟イチゴの抗酸化、鮮度保持を分析し、ミカンでの腐敗抑制効果を3月にまとめたい。

Q プラスチック機器設計の検討とは。

A 減菌・殺菌をメインに進めていきたい。

Q 自動走行技術事業

A I・T・IoT農業への

技術転用は。

A ドローンの活用や、JAが実験のトラクター自動運転は、将来に向けての技術展開によって作業効率化が予想される。

多世代交流型児童館整備事業「豊坂ほっと館」

Q 就労支援活動(1年間)の開催状況は。

A 17回開催。他に蒲郡若者サポート出張相談6回、県の巡回労働相談4回、パソコン講座6回など。

Q 館の利用者数は。

A 月平均で3600人。

## 議員研修会

# 住民とのコミュニケーション 対話と発信力の向上



熱演する講師

1月23日開催

幸田町議会は、「住民とのコミュニケーション」をテーマに、対話と発信力の向上を目指して、京都造形芸術大学副学長、本間正人氏を講師に、議員研修会を開催した。

議員にとって、特に大切なことは、住民の話をよく聴く力を養うことだという内容の研修となった。

議会だよりなどで、広報はしっかりやっているが、広聴は、まだ十分とは言えない。

そこで、話す人と聴く人に分かれて実践を行い、聴く力を向上させるノウハウを伝授して頂いた。

相づち、うなずき、繰り返しを行うって、話す人の意欲を醸し、真意を的確に把握する事を実践した。

話し易い状況を作り出して、話す人の思いを的確に把握する手法を学んだ。



議員にとっては、大変重要な要素であり、今後も努力して、高めていきたい。

あの答弁は  
どうなったの!

# 追跡 一般質問その後



シルバー人材センターで作業

平成28年3月定例会

大嶽 弘議員

平成30年6月定例会

酒向 弘康議員

シニア・シルバー世代の力をいかす

**問** 元気なシニア・シルバー世代の力をいかした人手不足解消と生涯現役の取り組みを。高齢者の起業家支援の取り組みを。

**答** シルバー人材センターの会員拡大・就業機会確保の取り組みを支援する。

その後

平成31年度、シニア・シルバー人材育成事業を取り組み、就労支援や起業する人のサポート体制を進める。



元子育て支援センターで実施

平成30年3月定例会

水野 千代子議員

病児・病後児保育の実施を

**問** 子どもの病気はいつ起こるか分からない。病児時・病児回復期にある子どもを一時預かることで保護者の子育てと就労の両立を支援できる。

**答** 平成30年度に計画を進め、平成31年度ファミリーサポートセンターで実施する。

その後

平成31年度から病後児保育に取り組み。  
ファミリーサポートセンターを事務局とし、援助会員宅と深溝保育園の元子育て支援センターの2カ所で行う病後児保育を実施する。



増築校舎のエアコン

平成30年6月定例会

丸山 千代子議員

平成30年9月定例会

伊與田 伸吾議員

小中学校教室にエアコン設置を

**問** 小中学校の教室は夏場になると30度を超え、耐えがたい暑さで授業に集中できない。エアコンの早期設置を進めるべきだ。

**答** 平成30年度に計画をつくり次年度以降に着手する。

その後

豊田市の小学1年生が亡くなるという痛ましい事故が起きたことで、前倒しで設置することになった。  
小中学校の普通教室と特別教室の198教室に今年12月末の工期で設置する。



40年以上経過した町史など

平成30年6月定例会

足立 初雄議員

町民に親しまれる町史の刊行を

**問** 愛すべき幸田町を知るため、多くの町民に親しまれ活用される町史の刊行を。

**答** 40年以上経過し、新しく編さんし直す時期。新たな町史は、アニメや写真など入ったわかりやすいダイジェスト版の発行を考えた。

その後

新編「文化めぐり」の調査を進めている。それを町史に盛り込む。